

「ケンミジンコに学ぶ(3)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

学校の校庭の池から、ケンミジンコの初期幼生(ノープリウス)と後期幼生(コペポディド)らしきものが見つかった。この成長過程は、多くの水生甲殻類に共通の変態で、海にいるエビやカニにも見られる。ケンミジンコの場合、11回も脱皮して成長するという。エビやカニの場合、幼生(ノープリウス時代)には目が一つしかないが、成長すると2つになる。ところが、ケンミジンコの場合、成体になっても目が一つのまま、という変わった特徴がある。このことから、ケンミジンコの仲間は学名(属名)をキクロプス(*Cyclopus* sp.)という。英語読みではサイクロプスで、ギリシャ神話の一つ目の巨人の名をもらったわけだ。



恐ろしい姿の一つ目巨人「サイクロプス」



「ケンミジンコ(コペポディド幼生)の眼」
上のイラストと区別がつかないほど、よく似ている。

さまざまな成長段階のケンミジンコが、同じ池の水にいる・・・ということは、卵を持ったメスが必ずいるはずである。今度はそれを探すことになった。残念ながら、5年生のすべてのクラスでは見つからなかったが、何匹かの卵付きのメスが見つかった。私は、写真を撮って、あとで配布することにした。今回、私も子どもたちも、小さなケンミジンコから、実に多くのことを学んだように思う。



「卵を持ったケンミジンコ」×100

卵を持ったものは、メスの成体とすぐわかる。

【子どものノートから】

「ケンミジンコは、ビーカーの中を泳いでいるのがわかります。けんび鏡で見たら、エビとそっくりでした。調べたら、エビと同じ仲間でした。」

「メダカと同じように、卵を持ったメスがいて、おどろいた。メダカみたいに、ケンミジンコを卵から育ててみたい。」

「池モン(=池モンスター)の中でも、ケンミジンコが一番カッコよかった。」